
コラプサー

関村俊介

登場人物

飛鳥 渡辺

椅子が2つ並んでいる。アスカはそれの1つに座っている。
ワタナベは立っている。

飛鳥 お父さん。

渡辺 うん？

飛鳥 座らないの？

渡辺 うん。

飛鳥 そう。

渡辺 うん。

飛鳥 なんで？

渡辺 うん。

飛鳥 いやいやいや、なんで？

渡辺 うん。

飛鳥 なんで座らないの？

渡辺 座らないとダメ？

飛鳥 ダメじゃないけど。

渡辺　じゃあ…うん。

飛鳥　なに？なんか怖いんだけど。

渡辺　座らないのが？

飛鳥　そう。

渡辺　怖くはないだろ。

飛鳥　なんか怖いんだよそこに立ってるのが。説教でも始まるんじゃないかと思うじゃん。

渡辺　説教なんかしないよ。

飛鳥　じゃあなんで座らないの？

渡辺　だって、嫌だろ？

飛鳥　え？何が？

渡辺　俺みたいなおじさんが、横に座るの嫌でしょ？

飛鳥　え？

渡辺　俺、高校生の時に、電車で通学してたんだけどさ。

飛鳥　うん。

渡辺　隣におじさんが座ったらなんか嫌だったんだよ。

飛鳥　そう。

渡辺 その頃はまさか自分が将来おじさんになるとは思ってなかったからさ。

飛鳥 え？

渡辺 将来おじさんになるとは思ってなかったの。

飛鳥 じゃあ将来何になると思ってたんだよ。

渡辺 …宇宙飛行士。

飛鳥 それは職業だよ？

渡辺 親父が宇宙飛行士だったんだよ。

飛鳥 らしいね。

渡辺 話したことあったっけ？

飛鳥 なんかお母さんから聞いたことある。お父さんもなりたかったんだ。

渡辺 まあ、俺は宇宙飛行士になれなかったけどな。

飛鳥 おじさんにはなったけどね。

渡辺 そうなんだよ。宇宙飛行士になってればなあ。

飛鳥 宇宙飛行士になったとしても、男の人は絶対おじさんになるよ？

渡辺 そうだな。

飛鳥 じゃなんで、将来おじさんになると思ってたんだよ。

渡辺 思わないじゃん。

飛鳥 ちよつとよくわかんないんですけど。

渡辺 あ。つまりね、リアルに想像できてなかったんだよ。

飛鳥 ああ、おじさんになるってことが。

渡辺 そう。

飛鳥 そういうことね。

渡辺 だから、高校生の俺は、電車でおじさんが隣に座ってきたら、なんだよ隣に座ってくるんじゃないやねえ

よ、とか思ってたわけ。

飛鳥 そう。

渡辺 男の俺でもそう思ってたんだから、女の人のもつと嫌だと思っわけ。

飛鳥 はあ。

渡辺 だから、アスカも、隣に俺が座ると嫌だろうなあ、と思って。それで座らないようにしているんだよ。

飛鳥 …。

渡辺 …傷付くなあ。

飛鳥 私、何も言っていないよ？

渡辺 でも思ってるだろ？

飛鳥 お父さんが隣に座るの嫌だなあ、って？

渡辺 うん。

飛鳥 思っていないよ。

渡辺 いやいや、アスカみたくない女が思わないわけではない。

後藤 思っていないって。

渡辺 おじさんが隣に座って嫌じゃないわけないでしょ、アスカみたくない女が。

飛鳥 いい女っていうのやめてくれる？

渡辺 でも、いい女だからさ。

飛鳥 自分の娘を女として見てるわけ？

渡辺 …いい女だなあ。

飛鳥 やめてくれる？なんかすごい恥ずかしいんで。

渡辺 でもさあ。

飛鳥 全然嫌だとか思っていないから、座ったらいいじゃん。

渡辺 でも、スペースがなあ。

飛鳥 はい？

渡辺 俺、そのスペースに入るかなあ。

飛鳥 …。

渡辺 …傷付くなあ。

飛鳥 私、何も言っていないよ？

渡辺 でも、こいつデブなんだよなあ、と思っただろ？

飛鳥 それはずっと思ってるけど。

渡辺 …傷

アスカは席を譲ろうとする。

飛鳥 ほら。

渡辺 え？

飛鳥 座りなよ。

渡辺 いや、いやいや、ちよつと！えー？ちよつと！そういう、そういうことじゃないんだよ。嫌だなあ！
そういうことではないんだよ。

飛鳥 なに？

渡辺 いやいや、えー？なんか俺がすごい座りたかったみたいじゃんか。

飛鳥 座りたかったんでしょ？

渡辺 いやいやいや、いいから、アスカ、座ってて。

飛鳥 はあ。

渡辺 俺は全然座りたくないんで。

飛鳥 じゃあなんでそこにいるんだよ。

渡辺 ここが俺のマイホームだからだ。

飛鳥 そういうことじゃなくて。

渡辺 どういうこと？

飛鳥 私になにか用？

渡辺 用っていうか、たまには会話でもしようかと思ってさ。

飛鳥 あっそ。じゃあちようどいいや、ご飯でも食べながら話そうよ。

渡辺 ランチはもう食べたから。

飛鳥 ランチ。

渡辺 ランチ。

飛鳥 もう食べたんだ。

渡辺 うん。

飛鳥 さつきダイニングに行ったばっかりなのに。

渡辺 うん？

飛鳥 もう食べ終わったんだ？

渡辺 あ、知らないんだ。

飛鳥 え？

渡辺 まあ知らないか、アスカは。

飛鳥 なにを？

渡辺 デブはご飯食べるのが異常に早いんだよ。

飛鳥 ああ。

渡辺 もちろん個人差はあるけどね、だいたいのデブは早い。

飛鳥 うん、知ってた。

渡辺 え？知ってた？

飛鳥 かなり昔からずっとお父さんを見てるからね。

渡辺 あ。そうだったな。

飛鳥 それにしても早くない？お昼ご飯、なんだったの？

渡辺 ゼリー。

飛鳥 デブ関係なかったね。

渡辺 うん？

飛鳥 それは、誰が食べても早いじゃん。

渡辺 といいますと？

飛鳥 いやいや、ゼリーだったら私でも1分以内に食べ終わるから。

渡辺 俺は2秒でいけるから。

飛鳥 知らないけどさ。

渡辺 まあだから、ここで話そうかな、って。

飛鳥 別にいいけどさ。じゃあ、やっぱ座ってよ。

渡辺 なんで？

飛鳥 いやいや、お父さんが立ってて、娘が座ってるのってなんかさあ。

渡辺 おかしいか？

飛鳥 おかしいっていうか、なんか、落ち着かないじゃん。

渡辺 俺は平気だけど。

飛鳥 私は平気じゃないんだよ。

渡辺 そう。じゃあ座るけど。

アスカは立つ。ワタナベは座る。

飛鳥 で、なんの話をしたいの？

渡辺 ……やっぱりどっか行くか。

飛鳥 なんなんだよ。

渡辺 やっぱり話しくいわ。どっちかが立ってると。

飛鳥 ほら、やっぱりダイニングでいいじゃん。

渡辺 や、ダイニングはさ、お母さんいるじゃん。

飛鳥 いるからなに？

渡辺 恥ずかしいじゃん。

飛鳥 どんな話をするつもりなんだよ。

渡辺 わかんないけどさ。父と娘の会話みたいのをしたいわけよ。

飛鳥 なにそれ。めんどくさいなあ。

渡辺 絶対、やっというてよかったな、って思うから、俺が死んだ時に。

飛鳥 思うかもしれないけどさ。自分で言うかね。

渡辺 どっか行こう。

飛鳥 いいけどさ。

渡辺 よし。

ワタナベ立ち上がる。

渡辺 近所に、いいゼリー屋あったかなあ。

飛鳥 …お父さんって最近ゼリーしか食べないの？

渡辺 アスカ。

飛鳥 なに？

渡辺 そんな人いるわけないだろ。

飛鳥 そうなんだけどさ。ゼリー屋とか言うからさ。

渡辺 話の流れ的に、あつたらちようどいい感じするじゃん。ゼリー屋。ゼリー屋ってなに？そんなのあ
るの？

飛鳥 知らないよ。そっちが言い出したやつだからね、ゼリー屋。

転換。

お店。テーブルと椅子2つ。

渡辺 まさかなあ。

飛鳥 うん。

渡辺 ゼリー屋なんてものがこの世に存在するとはなあ。

飛鳥 本当だよ。

渡辺 な。2秒で食べただろ、俺。

飛鳥 そうだね。

渡辺 尊敬してもいいんだぞ。

飛鳥 そういうことでは尊敬できない。

渡辺 子供の頃は、こういうので驚いてくれたんだけどなあ、アスカ。

飛鳥 もう33歳だからね。

渡辺 ということは俺ももう35歳か。

飛鳥 どういう計算だよ。

渡辺 間違った計算だよ。

飛鳥 もう帰っていい？

渡辺 帰るのおかしいよ、なにしにここに来たんだよ。

飛鳥 くだらないこと言うからさ。

渡辺 正直自分が何歳なのかよくわかんないんだよね。

飛鳥 45歳だよ。

渡辺 そうか。

飛鳥 そうだよ。

渡辺 さ、何を話そうか。

飛鳥 なんでもいいよ。

渡辺 もっとのってきてよ。

飛鳥 そっちが言ってきたんだからさ。話題くらいは自分で探しなよ。

渡辺 父と娘の会話がしたいっていうさ、その情熱だけでやらせてもらってるからこっちは。

飛鳥 なんだよそれ。

渡辺 やろうぜ！父と娘の会話。

飛鳥 そもそもさ。

渡辺 なに？

飛鳥 こういうことわざわざ言うのもあれだけどさ。

渡辺 うん？

飛鳥 私はさ、お母さんの前の旦那の子供じゃん。お父さんの実の娘じゃないじゃん。

渡辺 俺は、実の娘だと思って接してるから。

飛鳥 あ、ありがとう。でもさ、なんかさ。

渡辺 話しておきたいんだよ。

飛鳥 そう言われてもさ。

渡辺 お前が他人の娘だからこそ、話しておきたいの。

飛鳥 実の娘だと思えてないじゃん、舌の根も乾かぬうちにはこのことだよ。

渡辺 そうなんだよ。どこかで他人の娘だと思ってんだよ。俺はダメな父親なんだよ。だからこそさ。精神的には本当に親子だった、みたいなさ、そういう素敵な家族でありたいんだよ。そのためには必要じゃん、こういうの。

飛鳥 …テーマが重すぎるんだよ！

渡辺 え？

飛鳥 なんなんだよ！戯曲賞でも獲りたいのか？

渡辺 戯曲賞？

飛鳥 そんなところにひっかからなくていいんだよ。どうしてこんななんでもない昼下がりに、そんな重いテーマの話をしなきゃいけないんだよ。って話。

試し読みしていただけるのはここまでです。

この続きは商品をご購入の上ご覧下さい。

コラブサー（おためしサンプル）

2017年11月20日 初版発行
2017年11月22日 改訂（ver.2.000）

著 者 関村俊介 © 2017年
発行者 石村寛之
発行所 有限会社レトロインク
〒181-0001 東京都三鷹市井の頭4-26-7
電話 0422-24-9529
